



写真 かわはくに棲むコウモリ

かわはく No.40

CONTENTS

特別展開催報告「葉ーその形と利用」	2
かわはくで絵画展 開催報告	3
平成22年度荒川ゼミナール開催報告	4
電子顕微鏡の世界 (9) ～電顕研修開催報告～	5
かわはくのお仕事紹介	6
かわはくボランティアだより	7



特別展 開催報告

「葉—その形と利用」

平成22年9月18日から11月14日まで、特別展「葉—その形と利用」が開催されました。展示は本館入ってすぐのリバーホールと第二展示室でおこなわれました。

リバーホールには、大きな葉と小さな葉の代表としてオニバスとミジンコウキクサを生体展示しました。例えるなら、野球場とボールほどの大きさの違う葉です。第二展示室は「葉の形」と「葉の利用」の2部構成で展示しました。

第一部では入ってすぐ、巨大なオウギヤシの葉が目に残ります。このオウギヤシは長さが3mにもおよぶ大きなもので、とても目を引きまます。次に葉の化石を展示しました。世界最古の葉といわれるバラグワナチア（シルル紀後期・約4億1000万年前）の化石や葉の形がはっきりとしてきたアルケオプテリス（デボン紀・約3億6000万年前）など、葉の出現や変化の歴史が見えるような展示をしました。そして様々な葉と続き、葉の形や付き方、環境に合わせて変化した葉などをさく葉標本と写真で展示しました。その中で特に変わっているものには「リトープス」があげられます。アフリカの砂漠にある植物ですが、葉は2枚しかなく、まるで石ころのような不思議な模様と形をしています。かわいらしい石ころのようなリトープスは人気が高かった展示のひとつです。

第二部では昆虫による「葉の利用」の代表として、昆虫のギフチョウと植物のカンアオイを紹介しました。ギフチョウは幼虫の時期に例外なくカンアオイの葉を食草にしており、まさに利用される葉です。人間が利用する葉としては、葉を敷いてその上で土

器を製作した時にできた木葉痕の展示や、鎧兜に残るオモダカやカシワなどのデザインを紹介しました。入り口に展示したオウギヤシとのつながりで、大正大学からお借りしてきた「八千頌般若波羅蜜多經（はっせんじゅはんにゃはらみたきょう）」は紙の代わりにオウギヤシの葉にお経が書かれているものです。昔の人も大きくて薄い部分に紙と同じ機能を見つけ出し、利用していたようです。また、個人からお借りした、実際に豊臣秀吉が着用したとされている「太閤桐白羅紗陣羽織（たいこうぎりしろらしゃじんばおり）」は見応え十分な展示物でした。そのほかにアサの葉がデザインされた産着や染付用の型紙など、自然の中の葉を巧みにディフォルメしたデザインが目をひきました。最後は年中行事の中に見られる葉として、ショウブを題材にした浮世絵「五節句之内五月端午の節」や正月飾りとして有名なシダの仲間ウラジロなどを紹介しました。

最後にアンケートからお客様の生の声を紹介したいと思います。「葉の形がよかった」「葉が大きくてすごかった」「リトープスを見て何だ？と思った。植物とわかってびっくりした。」といった驚きの声や、「地味だが歴史・文化も学べる思いがけない切り口に好感が持てた」など展示全体へのご意見もいただきました。また、「もっと詳しい展示を期待していた、物足りなかった」などの貴重な意見もいただいているので今後の展示に生かしていきたいと思っています。展示期間中、足を運んでくださった皆様、ありがとうございました。

（研究交流部 石井克彦）



オウギヤシの葉



リトープス



かわはくで絵画展 開催報告

かわはくでは、幅広い年齢層の方に博物館を楽しんでもらいたいと考えています。そこで今回は少し大人向けの絵画展を2つ開催しました。

「杉崎夫妻のボタニカルアート展」 2011年1月15日(土)～2月6日(日)

ボタニカルアートとはボタニカル（植物の）とアート（芸術）を組み合わせた言葉で、植物の形・大きさ・特徴などを精密に描き、かつ鑑賞に値する絵画として植物の美しさを芸術的に表現する絵画です。今回は、山形市に在住の杉崎ご夫妻のボタニカルアート展を開催しました。読売新聞日曜版のコラムに挿絵として掲載された植物画の原画を中心として、本邦初公開の絵を含む91点（途中4枚を入れ替え）を展示しました。

展示期間は3週間程度と長くはありませんでしたが、来場した多くの方が、ボタニカルアートを目当てに来館されていたようでした。期間中に報道されたNHKニュース、新聞に掲載された情報、企画展のポスター・チラシを見て、あるいは人から聞いて来館した、という方が多くいらっしゃったようです。年齢層は40歳以上の方が殆どでしたが、中には「次は子供をつれて来たいです」とおっしゃる方もおられました。

期間中に開催された杉崎紀世彦さんによるギャラリートークでは、描き方を含む楽しい話にたくさんの方が魅了されていたようでした。

春を待つこの時期の為か、フクジュソウやフキの絵に人気がありました。サイズの大きいラフランスや柿の絵も迫力があって好まれたようです。また細かな描写に感嘆しました、見るだけで明るくなりました、心が暖まりました、などの感想もいただきました。

この展示を機にボタニカルアートの魅力を知って頂けたのなら幸いです。（研究交流部 森圭子）



ギャラリートークの様子

「小松崎茂の世界」 2011年2月11日(金)～3月6日(日)

小松崎茂氏（1915～2001）は日本を代表する挿絵画家で、戦艦大和などの戦記物、サンダーバード、空想科学イラスト、プラモデルのパッケージアート、子ども向け児童文学全集や絵物語のイラストなど膨大な数の作品を手がけました。

SF、近未来、戦艦イラストに代表される小松崎茂ですが、東京・南千住の生まれで、青年時代には日本画家を目指していたこともあり、多くの下町の風景画も残しています。この企画展では、「宇宙コロニー」「海底スーパートンネル」「地底都市」など、未来への夢や憧れをぎゅっと詰め込んで描かれた「メカニックファンタジー」シリーズを第一部、小松崎茂が手がけた多くの仕事から「戦艦大和」などの戦記物、絵物語、児童文学全集イラストなどから、ごく一部ですが、紹介したものを第二部としました。さらに第三部では、昭和初期に描かれた貴重な作品などから画家としての小松崎茂にスポットを当てました。日本画を学

び修行していた頃に描いた、生まれ育った東京下町の風景画からは古き良き昭和の雰囲気漂います。また、友人に送ったという「武田信玄公」は本邦初公開で、画家としての小松崎茂を辿る際に大変興味深い作品だと思われまます。他にも小松崎茂としては珍しい油絵で描いた風景画も貴重な作品といえるでしょう。



展示室内の様子

ご来場頂いた方々に、小松崎茂の世界を懐かしく、あるいは新たな発見を持って見ていただけたでしょうか。（研究交流部 小林まさ代）



平成22年度荒川ゼミナール開催報告

平成22度の荒川ゼミナール（略称荒ゼミ）は、荒川の源流部・上流部にあたる「秩父」にスポットを当てて、講演会、紅葉見学会、小昼飯作り体験を実施しました。また「大人のウォーキング」は、3回実施し、各回とも約10kmの道のりを参加者全員で踏破しました。

「今年度の荒ゼミはどうだったのか？」今回は簡単にではありますが、報告してみたいと思います。

まずは、講演会。講演会は2回実施しました。1回目は、吉川國男先生を講師にお招きして、「荒川の源流地帯」と題し、荒川の源流、甲武信ヶ岳周辺の自然環境の話をしていただきました。吉川先生は荒川総合調査にも携わった方であり、講演内容は先生の実体験が中心。「実は恐い側面の方が多い秩父の山々」等々、思わず仕事を忘れて先生のお話に聞き入ってしまいました。

2回目は、本間岳史先生を講師にお招きして、「秩父の地質とジオパークへの取り組み」と題してお話していただきました。講演内容は、演題が示す通り2本立てで、1つは小鹿野町の「ようばけ」をはじめとする秩父地方の地質の特色のお話。もう1つは「日本地質学発祥の地」でもある秩父地方が誘致を目指しているジオパークに関するお話でした。本間先生の講演は何度聞いても大変勉強になります。

次に、紅葉見学会のお話を。今年は夏の猛暑の影響もあって、紅葉の見ごろの時期が遅れてしまい…残念ながら、見学会当日が「一番の見ごろ！」とはなりませんでしたが。しかし秩父鉄道武州日野駅周辺の沢沿いの、ちょうど色づき始めた紅葉を参加者一同で満喫しました。



紅葉見学会

次に、小昼飯作り体験のお話を。最近ではB級グルメとして話題にもなっている、秩父の伝統おやつ「小昼飯」。昨年度は、味噌ポテトとたらし焼きを作ったので、今年度は炭酸まんじゅう作りにチャレンジ！参加者の多くが、「おばあちゃんとお孫さん」というペアだったので、子供達は昔からよく作っていたというおばあちゃんに教えてもらいながら、両手、時には顔を真っ白にしながらいながら、思い思いのおまんじゅうを作っていました。今度はぜひお家で作ってみてくださいね。



炭酸まんじゅうつくりの様子

最後にウォーキングのお話を。今年度は3回行いました。出かけた場所は、①「武州寄居七福神巡り（かわはくオリジナルVersion.）」、②「畠山重忠ゆかりの地・旧川本町」、③「塙保己一の郷里&近代化産業遺産の眠る町・旧児玉町」の3ヶ所。今年度実施した紅葉見学会もそうですが、かわはくのウォーキングは、道中に学芸員の解説がつくのがポイント。そして出かける先もなかなか奥の深い（マニアックな）場所ばかり。今年度踏破した場所も含め、かわはく作成オリジナルウォーキングマップもありますので、もし必要な方がいらっしゃいましたら当館までお問い合わせください。

今年度の荒川ゼミナールは「秩父」をテーマに実施しました。来年度は、荒川と実は関係の深い、映画『のぼうの城』の公開を記念して、荒川流域で活躍した【武士】にまつわる講演会を企画しています。またウォーキングでは隅田川沿いを歩いてみたいと考えています。今年度同様、皆様のご参加をお待ちしております。

（研究交流部 羽田武朗）



電子顕微鏡の世界 (9)

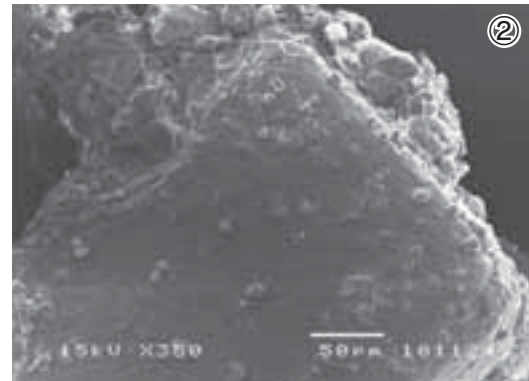
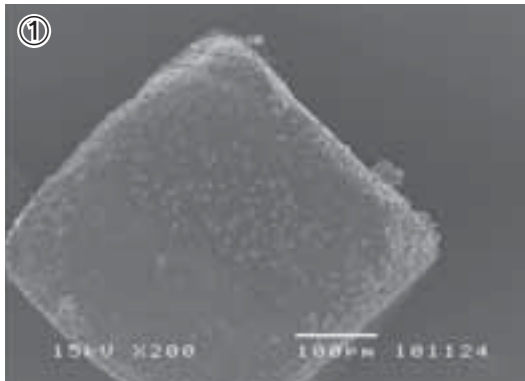
～電子顕微鏡操作研修会～

毎年当館で開催される電子顕微鏡操作研修会に、今年度は14名の先生方のご参加をいただきました。参加申し込みが多数のため、今年度も参加者は抽選で決定させていただきました。

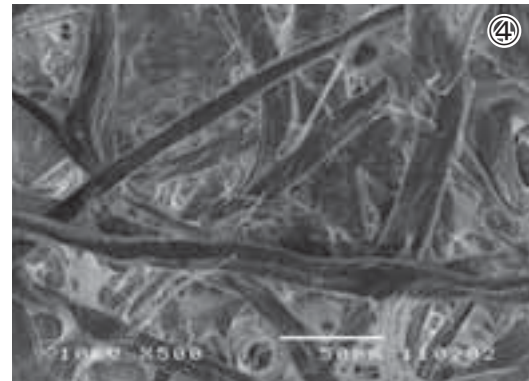
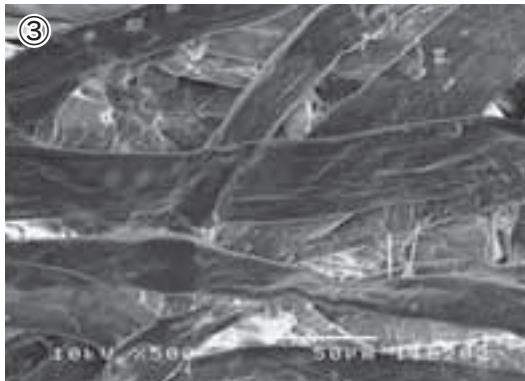
電子顕微鏡というなかなか使う機会の得られない装置が使えるとあり、非常に熱心で興味津々、といった参加者の方が多く、毎回楽しい研修会となっております。今年度は「生徒にこれを見せたい」という目的意識がはっきりしていた方が多いという印象を受けました。カッターの刃を使うとどれくらい刃こぼれするのか見せたい、ろ紙の繊

維の状態を見せてろ過を学ばせたいなど、授業に対する熱意が感じられました。中には生徒指導の時に、健康な髪の毛と染色した髪の毛の違いを見せて、髪がどれくらい傷むのかを学ばせたい、というのも！意外な電顕の利用法でした。

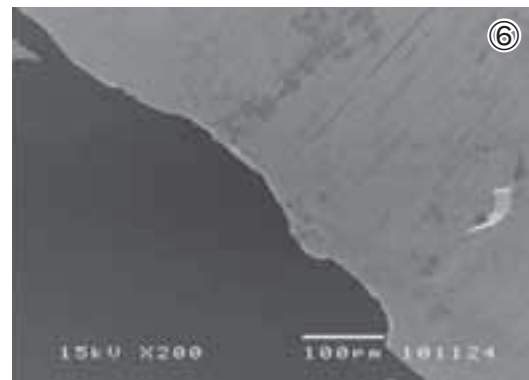
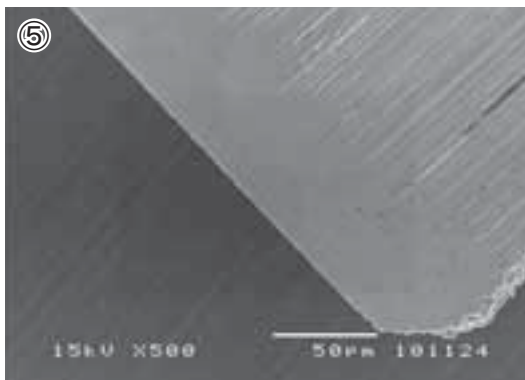
また今年度は、高校の地学部の生徒さんたちが、部活動の一環で電顕研修を受講しました。埼玉県内の教職員・生徒の方に少しでも多く電子顕微鏡を利用していただくために、かわはくスタッフがお手伝いします。来年度も電子顕微鏡操作研修会は開催されますので、ぜひご参加下さい。



①食塩の結晶 ②化学調味料の結晶 / 松伏町立松伏中 西浦宏和教諭



③コーヒー用ペーパーフィルター ④ろ紙 / 所沢市立清進小 中川宏子教諭



⑤カッターの刃 (使用前) ⑥カッターの刃 (使用后) / さいたま市立宮原小 本間規夫教諭



かわはくのお仕事紹介

博物館は多くの方に心地よく、楽しんだり学習したりすることに利用してもらいたいと考えています。このページではそんな博物館の仕事から、その一部を紹介します。

「川の小さな図書館」紹介

埼玉県立川の博物館の荒川情報局にある「川の小さな図書館」では、荒川の自然や歴史文化に関する図書があります。当館で発行した紀要、展示会図録や「かわはくだより」等もそろえてあります。また、他の博物館や美術館などの図録や紀要、



「川の小さな図書館」

埼玉県内の市区町村史など歴史や自然に関する図書を収拾しています。

図書スペースに設置されている机と椅子は、休憩や学生の調べ学習に利用されています。

展示をご覧になった後、図書スペースにて本を読みながら展示品に思いを巡らせて見るのはいかがでしょうか。 (図書担当 堀佳子)



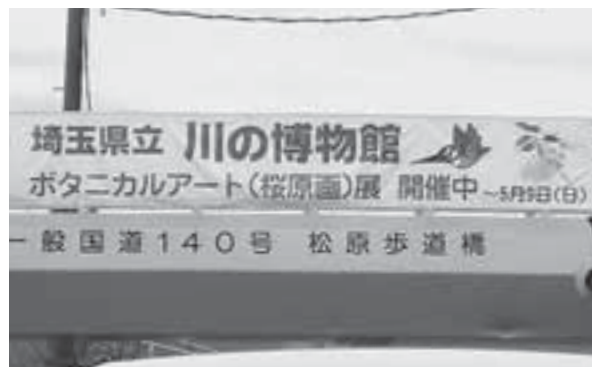
当館建設の基盤「荒川総合調査報告書」もあります

事業推進部の仕事から

川と人々、あるいは川をとりまく環境について「楽しみながら学べる博物館」を目指す当館の事業推進部の活動は、「お客様に楽しんで、良い思い出と学習の成果を持ってお帰りいただき、また来たいと思っていただく」を目標の一つにしています。

ここでは目標達成に向けた「楽しい思い出づくりの第一歩」を推進する活動の一部をご紹介します。
[駐車サービス券の発行] 当館は5年前から駐車料金を設定し、そのため「公営施設でありながら駐車料金を徴収するのか」という、お客様方からの不満の声が受付係員に多く寄せられていました。この声に対応するため、まずは期間限定で散発的に、付帯施設である直営レストランにおいて「有料駐車のお客様方に、駐車料金相当額が使用できるサービス券」を発行しました。その結果お客様方からの不満の声はほとんどなくなり、サービス券の利用率も平均3割と、好評を得ています。

[歩道橋横断幕案内] かわはくをご存知ない方、また関越自動車道から道に迷われるお客様のため、140号国道の歩道橋に、企画展の告知と共に当館への案内表示を掲出しました。こちら「楽しい思い出づくりの第一歩」に少なからず貢献できたと思っています。



お客様を見送りながら、笑顔で帰宅するお子様たちが増えることを目指している事業推進部です。

(事業推進部 萩原幸仁)



かわはくボランティアだより

かわはくボランティアメンバーは「かわはく」における活動の他にも川と水に関心・興味をもって活動されている方がおられます。そんなボランティアさんのお話と、新たに加わったメンバーからの報告を紹介します。

天明の頃の石盛と寺坂棚田の収穫量

つい最近、天明五年(1785)の古文書、「武州高麗群矢嵐村差出明細帳」を読む機会を得ました。これは今の飯能地域で検地が行われ、それに対する標準出来高を算出し、役所へ届出た内容の控え、年貢米算出の基礎となるものようです。

読み進むうち、当時の標準出来高と、私が昨年からはじめた、秩父横瀬の寺坂棚田での米づくりにおける玄米収穫高の比較を試みたくなりました。古文書によれば、矢嵐村の田のランクを上田から下下田まで4段階に分け、そのうち一番良く出来る田んぼ(上田)では、1反当り1石2斗を標準出来高として割り付け、算出をしています。これを石盛と言うんだそうです。素人が始めたわが田んぼからの昨年度初収穫は凡そ100kg。米1石は150kgでありますから、0.67石。わが田の総面積は約250㎡=76坪=0.253反。つまり0.67石/0.253反÷2.65石/反取れたこととなります。飯能と秩父の場所の違いはあるものの、当時の標準出来高の倍以上の収穫でした。石盛も標準出来高であります

ので、実際はもっと収穫があったらしいのですが、うれしいではありませんか。これは、水と肥料、気候や種籾そのものの違いかもしれません。

寺坂棚田は、段々畑。棚田の奥500mあたりの沢から清朝でミネラルいっぱいの水をU字溝を使って田にひいています。水のありがたさを再認識するとともに、今でも水番を決めて3日に一度づつしか我々の棚田へは水を入れないようにして、水争い?が起きないようにしていますが、いにしえに於ける川と田と水争い、それ等の解決に向けた人々の想い、河川の改修等の歴史に改めて思いを寄せる今日この頃です。

(ボランティアの会 中山功)



木の実あそび をはじめませんか?

かわはく活動のひとつ、「木の実あそび」について、紹介させていただきます。

何といっても人気があるのは、コマ、やじろべえ、トトロどんぐりです。

「これ、どうやって作るの?」「わあー。可愛いー。」と、子供たちの目が一斉に、輝きます。そのことが嬉しく、やりがいと充実感を感じます。さらに、高学年になると「このどんぐり、木の種類は何ですか?」「帽子みたいなのは、何ですか?」と質問も沢山いただきます。こどもの好奇心は、遊びから、知らず知らずのうちに、森、そして、自然への関心とつながっていきます。

また、木の実遊びは、子供から大人まで、気軽に楽しめる工作です。どんぐりの形から何が作れるのか想像する楽しさもあります。動物のおなかや昆虫の頭部などを想像し、それを色々などんぐりをパズルのように組み合わせて形にしていくと、わくわくしますよ。作りたいイメージを大事に、

大作に挑戦してみませんか?きっと、木の実と向きあう時間が、心にほっとする時間を取り戻してくれると思います。これからは、新緑のいい季節ですね。雑木林に出かけませんか。

山歩きが好きで、林でたくさんのどんぐりを見つけるとワクワクしてしまう私。昨年落下した、どんぐりが芽を伸ばし、葉を展開しているのに、出会えるかもしれません。

追伸:かわはくの玄関横に、木の実の種類、作品を展示してあります。ボランティア一同、皆様のご来館をお待ちしております。

(ボランティアの会 熊谷由起子)



4月

3/19/土~5/8/日

企画展「コウモリー bat な春やすみー」

2/1/火~6/5/日

スロープ展「世界の運河・日本の運河」

3/日 企画展関連講演会「コウモリのフシギ」

講師：大沢夕志氏
時間：13：30～15：00
費用：無料
定員：50人（申込順） ☎
内容：埼玉県に生息するコウモリの種類や生態の他、様々なコウモリについてお話しします。

9/土 かわはくであそぼう・まなぼう「桜の紋切り」

時間：13：30～15：30
費用：無料
内容：折り紙から桜の紋を切りだして遊びます。

17/日 荒川ゼミナール「大人の遠足・春のウォーキング」

時間：10：00～14：30
費用：100円（保険料）
定員：20名（申込順） ☎
内容：学芸員が自然・歴史・民俗の解説を行いながら歩きます。

23/土 企画展関連イベント「コウモリ観察会」

時間：16：30～18：30
費用：100円（保険料）
定員：25人（申込順） ☎
内容：バットデテクターを使って普段聞くことのできないコウモリの超音波を聞きながらコウモリを観察します。

5月

5/21/土~6/26/日

5月企画展「地図でたどる荒川」

1/日~5/木・祝

かわはくGWまつり
時間：10：00～16：00

1/日 かわはくであそぼう・まなぼう「春の草花あそび」

時間：13：30～15：30
費用：無料
定員：なし
内容：春の草花で遊びます。

15/日 ボランティア説明会

時間：10：00～12：00
内容：ボランティアの新規募集の説明会を行います。

22/日 かわはく体験教室・川に親しむ教室「川の生き物観察教室」

時間：10：00～12：00
費用：100円（保険料）
定員：20名（申込順） ☎
内容：かわせみ河原で、川の中にすむ生き物の様子を観察します。

28/土 かわはく体験教室・かわサタ自然教室「まが玉づくり」

時間：13：30～15：30
費用：300円（材料費）
定員：25名 ☎

7月

7/16/土~9/4/日

夏期企画展

「ひやっとコオリ～水と氷のフシギ」

3/日 かわはくであそぼう・まなぼう「川の日記念・七夕かざりづくり」

時間：①10：00～12：00 ②13：00～15：00
費用：無料
定員：なし
内容：川の日を記念して七夕かざりをつくり、荒川大模型173に飾ります

18/月・祝 かわはく体験教室・川に親しむ教室「川のほりたんけん」

時間：10：00～14：00
費用：800円（保険料・バス代）
定員：20人（申込順） ☎

23/土 かわはく体験教室・かわサタ自然教室「竹の水鉄砲づくり」

時間：13：30～15：30
費用：200円（材料費）
定員：25人（申込順） ☎
内容：竹をつかった水鉄砲をつくり、的当てを楽しみます。

24/日 企画展関連講演会①

時間：13：30～15：00
費用：無料
定員：80名（申込順） ☎

31/日 かわはく夏まつり

時間10：00～16：00

6月

6/7/火~10/2/日

スロープ展「かわはく生き物調査報告Ⅱ

～センサーカメラで見るかわはくの生き物～

5/日 かわはくであそぼう・まなぼう「環境の日記念・水質調べ」

時間：①10：30～12：00 ②13：30～15：00
費用：無料
定員：なし（材料がなくなり次第終了）
内容：環境の日にちなみ、パックテストで水質調査を体験します。

12/日 荒川ゼミナール「大人の遠足・6月のウォーキング」

時間：10：00～14：30
費用：100円（保険料）
定員：20名 ☎

18/土 かわはく体験教室・川に親しむ教室「箱めがねで川底たんけん」

時間：10：00～12：00
費用：100円（保険料）
定員：20名 ☎
内容：箱メガネを使って川の中の様子を観察します。

25/土 かわはく体験教室・かわサタ自然教室「魚の体を魚拓で観察」

時間：13：30～15：30
費用：200円（材料費）
定員：25人（申込順） ☎
内容：魚の魚拓を取りながら魚の体のつくりを勉強します。

ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申込みが必要です。開催日の1ヶ月前より電話またはFAX、Eメールでお申し込みください。③定員になりしだい締め切ります。④川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL/048-581-8739(研究交流部) FAX/048-581-7332

Eメール/web-master@river-museum.jp/



2011年3月29日発行